

WWViews in Japan～日本からのメッセージ：地球温暖化を考える～

速報 News Letter (ver.1.0)

■「WWViews in Japan～日本からのメッセージ：地球温暖化を考える～」とは

2009年12月に、デンマークのコペンハーゲンで「COP15（第15回気候変動枠組条約締約国会議）」が開催されます。この会議は、1997年に議決された「京都議定書」の約束期間（2008年～2012年）の後の枠組みを決めるという重要な役割を持っています。

WWViewsとは、COP15の開催地であるデンマークの「デンマーク技術委員会(DBT; Danish Board of Technology)」と「デンマーク文化協会(DCI/ Danish Cultural Institute)」が企画したプロジェクトです。COP15の政府間交渉、及び、今後の世界の気候政策の行方に影響を与える機会を、市民に提供することを狙いとして企画されました。日本では、京都議定書を生んだ京都市が開催場所選ばれました。

WWViewsの中心は、今日9月26日に、世界38ヶ国44カ所で同時に開催される「世界市民会議」です。そこでは、各会議100人の市民が、COP15で交渉される論点のいくつかを、ともに議論しながらそれぞれ見解を形作り、その結果を投票する仕組みになっています。世界各国・各会議場すべてが、この同じ形式で、地球を西回りに、それぞれの国で朝9時前後から会議をスタートさせてきました。

■WWViews in Japanのプログラム

開会（イントロダクション）
第1テーマセッション：気候変動と、それがもたらす結果
第2テーマセッション：長期目標と緊急度
第3テーマセッション：温室効果ガス排出への対応
第4テーマセッション：技術および適応策のコスト
提言セッション
今後に向けて
プレス発表

テーマセッション（1～4）では、次のような流れで議論が行われた。

1. テーマの紹介とビデオの上映
2. 問い（「WWViews参加者への質問」）の提示と説明
3. グループごとのディスカッション
4. 各参加者の回答の投票（第2テーマセッション以降は、その前のセッションの投票結果の報告も行った）

提言セッションでは、各グループ(18グループ)それぞれが短い提言メッセージをまとめ、最終的に会議全体としての提言を、全員による投票によって決定した。

■各セッションの概要： 問いと結果

■イントロダクション

小林傳司実行委員長による開会挨拶に続いて、福山哲郎外務副大臣よりご挨拶を頂いた。副大臣からは、「おそらく私は交渉団の一人になりますので、私はぜひみなさんのまとまったご意見をコペンハーゲンに向かう前に承ることを、この場で約束をさせていただきたいと思います」、「今日一日、大変、みなさんにはお力添えをいただきたいと思います、真摯な議論をしていただくことを心からお願い申し上げます」との力強いメッセージを頂いた。

第1 テーマセッション： 気候変動と、それがもたらす結果

【問い】

質問1.1 このWWViews に参加する以前に、気候変動とその影響について、どの程度知っていましたか。

- ① 全く知らなかった
- ② ほとんど知らなかった
- ③ ある程度、知っていた
- ④ よく知っていた
- ⑤ わからない / 答えたくない

質問 1.2 気候変動問題とその影響について、さまざまな予測をご覧いただきました。あなたは今、気候変動にどれほど不安を感じていますか。

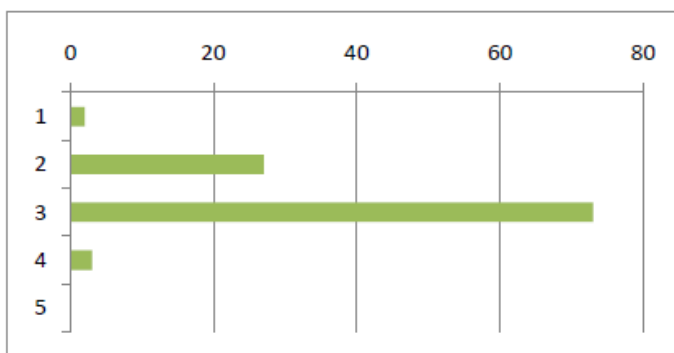
- ① とても不安だ
- ② かなり不安だ
- ③ 少し不安だ
- ④ まったく不安ではない
- ⑤ わからない / 答えたくない

投票結果

以上2つの質問に対する参加者の回答の投票結果は次のようになった。

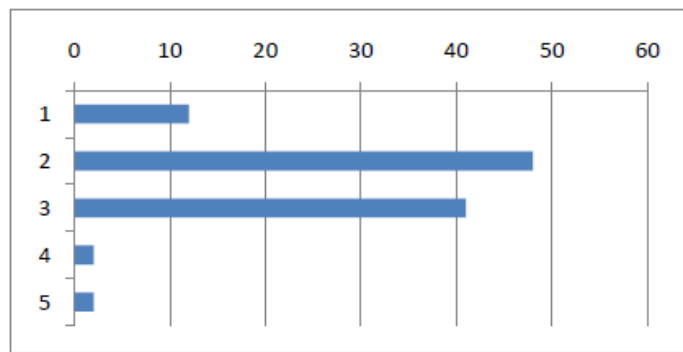
1.1 WWViewsに参加するまで、気候変動問題についてどの程度、知っていましたか。

番号	項目	合計
1	まったく知らなかった	2
2	ほとんど知らなかった	27
3	ある程度、知っていた	73
4	よく知っていた	3
5	わからない / 答えたくない	0



1.2 あなたは今、気候変動にどれほど不安を感じていますか。

番号	項目	合計
1	とても不安だ	12
2	かなり不安だ	48
3	少し不安だ	41
4	まったく不安ではない	2
5	わからない／答えたくない	2



第2 テーマセッション： 長期目標と緊急度

問い

質問 2.1 新たな国際的な気候変動の対策の合意を、どの程度、急ぐべきだと思いますか。

- ① 新たな対策への合意はすぐに必要であり、COP15 で合意されるべきだ
- ② 新たな対策への合意は重要だが、2, 3 年後でもよい
- ③ 気候変動の深刻な影響が出るまで、合意は様子を見てもよい
- ④ 新たな枠組みは必要だと思わない
- ⑤ わからない / 答えたくない

質問 2.2 COP15 で新たな対策が合意された場合、あなたの国の政治家は積極的に参加すべきだと思いますか。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ わからない / 答えたくない。

質問 2.3 気温の上昇を抑えるために、どのような長期目標を立てるべきだと思いますか。

- ① 目標は必要ない
- ② 気温が 2°C 以上、上昇してもかまわない
- ③ 気温の上昇は、2°C 以内に抑えるべきだ
- ④ 気温の上昇は、現在のレベルで抑えるべきだ
- ⑤ 産業革命以前のレベルに戻すべきだ
- ⑥ わからない / 答えたくない

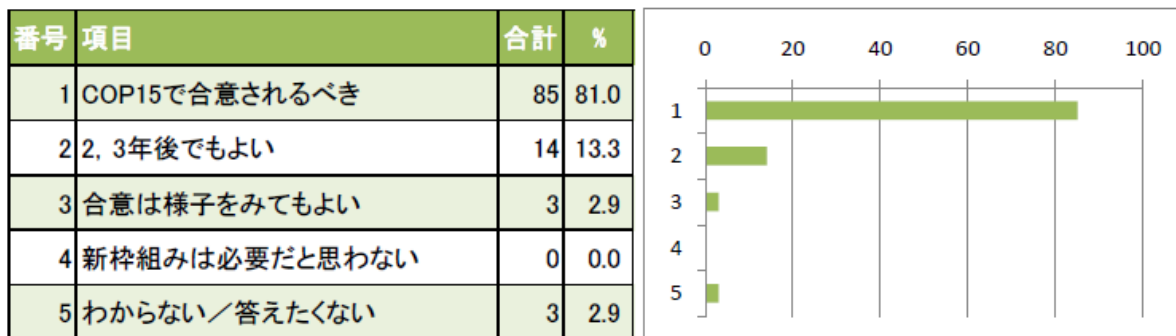
質問 2.4 新たな合意では、約束を果たさなかった国に対して、罰則規定を設けるべきだと思いますか。

- ① 厳しい罰則を設け、約束を守らない国が得をすることのないようにすべきだ
- ② 意味ある罰則を設けるべきだ
- ③ 罰則は設けるが、形式的なものにとどめるべきだ

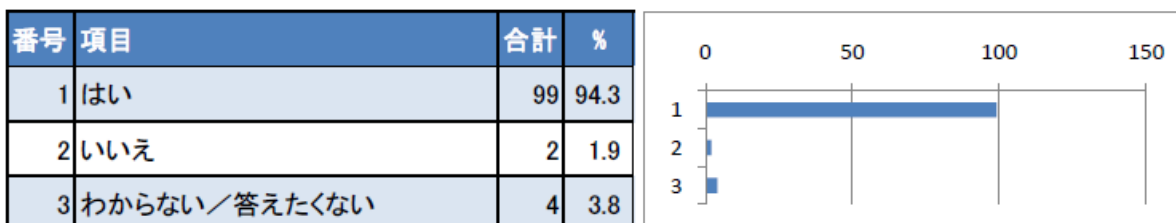
- ④ 罰則を設けるべきでない
- ⑤ わからない / 答えたくない

投票結果

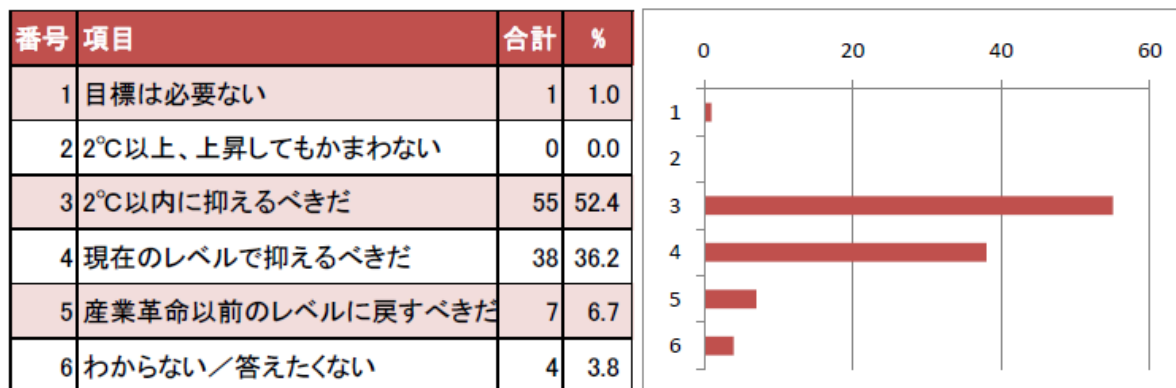
2.1 新たな国際的な気候変動の対策の合意を、どの程度、急ぐべきだと思いますか。



2.2 あなたの国の政治家は積極的に参加すべきだと思いますか。



2.3 気温上昇を抑えるために、どのような長期目標を立てるべきだと思いますか。



第3 テーマセッション： 温室効果ガス排出への対応 問い

質問 3.1 「附属書 I 国」は、2020 年までにどの程度、温室効果ガスを削減すべきだと思いますか。

- ① 40%以上削減すべきだ
- ② 25-40%の間で削減すべきだ
- ③ 25%未満にすべきだ
- ④ 削減目標は必要ない
- ⑤ わからない / 答えたくない

質問 3.2 「附属書 I 国」以外で、かなりの経済水準を持つ国、または排出量が多い国の短期的削減目標は、どうあるべきだと思いますか。

- ① 「附属書 I 国」と同じ削減目標にすべきだ
- ② 排出を削減させるべきであり、それらの国の経済水準が高くなり、排出量が増えるのに応じて、排出量をより大きく削減すべきだ
- ③ 排出の増加を制限すべきであり、それらの国の経済水準が高くなり、排出量が増えるのに応じて、排出量の増加をより厳しく制限すべきだ
- ④ 排出量をコントロールするという約束を求めるべきでない
- ⑤ わからない / 答えたくない。

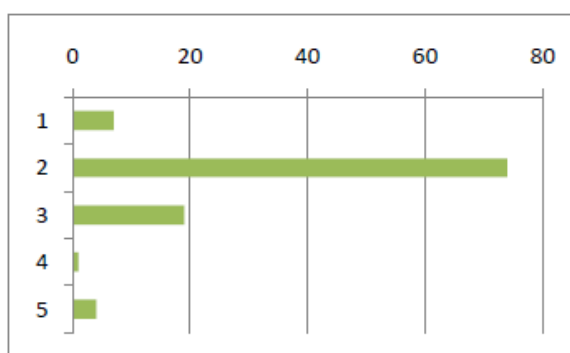
質問 3.3 低所得の発展途上国の短期削減目標はどうあるべきだと思いますか。

- ① 「附属書 I 国」と同じ削減目標であるべきだ
- ② 排出の削減が図られるべきであり、それらの国の経済水準が高くなり、排出量が増えるのに応じて、削減量を大きくしていくべきだ
- ③ 排出の増加を制限することが図られるべきであり、それらの国の経済水準が高くなり、排出量が増えるのに応じて、制限量を大きくしていくべきだ
- ④ 排出量をコントロールするという約束を求めるべきでない
- ⑤ わからない / 答えたくない

投票結果

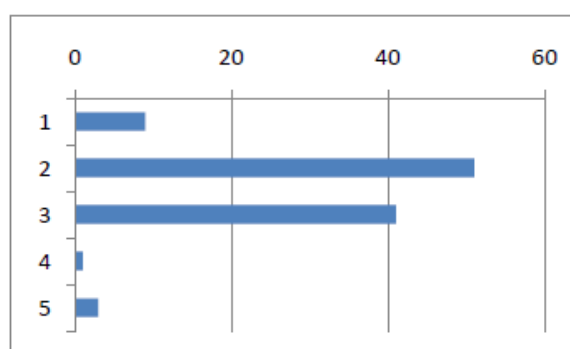
3.1 附属書 I 国は、2020年までに、どの程度温室効果ガスを削減すべきか

番号	項目	合計	%
1	40%以上削減すべきだ	7	6.7
2	25-40%の間で削減すべきだ	74	70.5
3	25%未満にすべきだ	19	18.1
4	削減目標は必要ない	1	1.0
5	わからない / 答えたくない	4	3.8

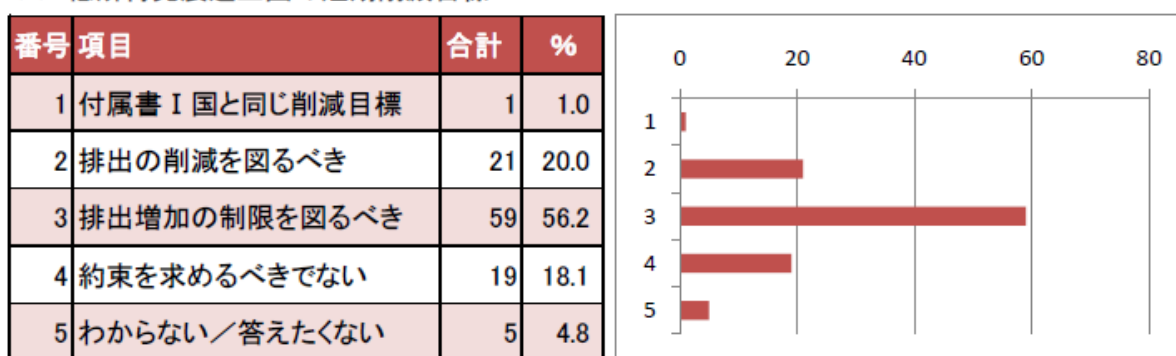


3.2 附属書 I 国以外で、一定の経済水準を持つ国、排出量の多い国の短期的削減目標

番号	項目	合計	%
1	附属書 I 国と同じ削減目標	9	8.6
2	排出を削減させるべき	51	48.6
3	排出の増加を制限すべき	41	39.0
4	約束を求めるべきでない	1	1.0
5	わからない / 答えたくない	3	2.9



3.3 低所得発展途上国の短期削減目標



第 4 テーマセッション：技術および適応策のコスト

問い

質問 4.1 化石燃料の価格を上げるべきだと思いますか。

- ① はい、すべての国で上げるべきだ
- ② はい、ただし「付属書 I 国」と、かなりの経済水準を持つ国、または排出量が多い国で上げるべきだ
- ③ はい、ただし「付属書 I 国」でのみ上げるべきだ
- ④ いいえ、価格を統制すべきでない
- ⑤ わからない / 答えたくない

質問 4.2 発展途上国が気候変動への緩和策や適応策を講じるのを経済的に支援するために、国際的な基金を設けるべきだと思いますか。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ わからない / 答えたくない

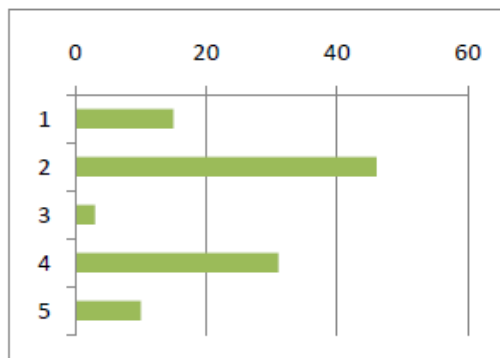
質問 4.3 新たな取り決めでは、誰が費用を負担することにすべきだと思いますか。

- ① すべての国が負担すべきだ
- ② 最貧国を除く、すべての国が負担すべきだ
- ③ 「付属書 I 国」が負担すべきだ
- ④ 特に決める必要はない
- ⑤ わからない / 答えたくない

投票結果

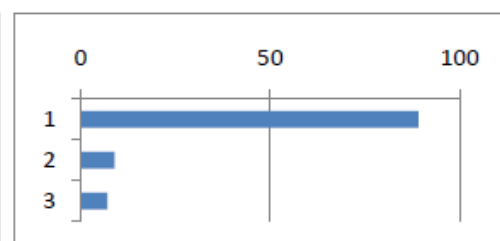
4.1 化石燃料の価格を上げるべきだと思いますか。

番号	項目	合計	%
1	すべての国で上げるべき	15	14.3
2	付属書 I 国と高経済水準、高排出量	46	43.8
3	付属書 I 国のみ	3	2.9
4	価格を統制すべきでない	31	29.5
5	わからない／答えたくない	10	9.5



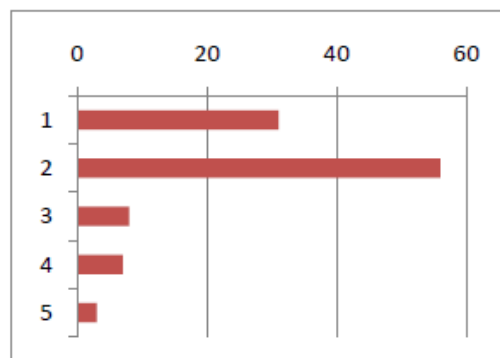
4.2 発展途上国が気候変動への緩和策や適応策を講じるのを経済的に支援するために、国際的な基金を設けるべきだと思いますか。

番号	項目	合計	%
1	はい	89	84.8
2	いいえ	9	8.6
3	わからない／答えたくない	7	6.7



4.3 新たな取り決めでは、誰が費用を負担することにすべきだと思いますか。

番号	項目	合計	%
1	すべての国	31	29.5
2	最貧国を除く、すべての国	56	53.3
3	「付属書 I 国」	8	7.6
4	決める必要はない	7	6.7
5	わからない／答えたくない	3	2.9



■提言セッション

WWViews in Japan 最後のセッション。真摯な議論を経て、18 のグループそれぞれの短い提言メッセージが、タイトルつきでまとめられ、最終的に会議全体を代表する提言として、全員による投票によって、以下の三つの提言が選ばれた（得票数順）。

- 地球がカゼをひいています！（票数 31）
熱があと 2℃上がると重症になります。私達は治し方を学び、世界の人々に広めます。皆で知恵を出し合って、経済的に、技術的に協力し合って治しましょう。
- 気候変動問題に国境なし（票数 28）
先進国は舵取役としての責任を。途上国（高排出国）には理解と協調を。地球人として、地球のあるべき姿を未来に残そう。
- ひとりひとりができること（票数 25）

先進国と途上国が互いに尊重し合える新しい枠組の中で、世界中の人々が情報共有できる場づくりを実現し、一人一人が自ら取り組める目標づくりを行うこと。

以上、三提言も含めたすべての提言は以下の表のとおり。

提言タイトル	印	提言本文	票数
「今一未来の地球へ」		私たちは地球市民として公平に負担し、責任を果たしたい。皆に「やらせる」のではなく皆を巻き込んでいく強いリーダーシップを望む。	8
地球はひとつの家だから		もはや地球の破壊は許されない。後悔しない未来のために、できることからやっていく。豊かな人から意識を高め、「地球は一つの家」と考えよう。	24
「未来の地球との約束！」		皆で参加し、実現可能な目標を立て、すぐに行動しよう。先進国は、脱化石燃料の技術開発と資金の提供という役割を果たし危機をチャンスに変えよう。	14
気候変動問題に国境なし	★	先進国は舵取り役としての責任を。途上国(高排出国)には理解と協力を。地球人として、地球のあるべき姿を未来に残そう。	28
気候改革！！		最も不利な人々の切実さを持って地球人としての環境教育の確立とすべての国で公平性を考慮した削減目標を定め、ペナルティも含めた実効力のある対策を求める。	9
本気で地球を救おう		我々はいつでも行動できる。そのために全世界市民との情報の共有化を図り、実行可能なシステムの構築を求める。	16
地球の未来への責任		これ以上負の遺産を増やさないために、先進国を先頭に地球の私たち全員が、意識を持ち、新しいエネルギーを使いながらもCO2の削減目標を達成できる枠組みを作る。	18
地球がカゼをひいています！	★	熱があと2℃上がると重症になります。私達は治し方を学び、世界の人々に広めます。皆で知恵を出し合って、経済的に、技術的に協力し合って治しましょう。	31
地球温暖化に対する意識を高めよう		地球温暖化に対する意識を高め、世界各国が同じ土俵に立った上で身近な事からリスクを恐れない大胆な対策を明確かつ実現性のある目標を作るべきである。	10
青い地球を残すために！		気候変動への緊急手術が必要です。鳩山政権の友愛の精神で、見返りを求めず日本の技術力を提供します。短期的な目標・賞罰を実施し、長期的に継続しよう。	11
世界の皆が参加しよう！		自国の利害や立場によらず、すべての国の参加を求める。広く正確な情報提供で市民意識を高める。会議の成果を反映させ次世代に継承させる。	25
「地球＝自分の家」のために		気候変動に対し、誰もがわかりやすい目標と経過を、定期的に発信して下さい。身近で具体的な指針も示して下さい。	21
ひとりひとりができること	★	先進国と途上国が互いに尊重し合える新しい枠組の中で、世界中の人々が情報共有できる場づくりを実現し、一人一人が自ら取り組める目標づくりを行うこと。	25
地球ファミリーの舵取りを！！		地球という同じ生命体に住む家族として、知恵と心を寄せ合い、互いの立場を受け入れ認めながら、1人1人ができる事をそれぞれの国で実行していこう。	15
私たちはチーム地球の一員です。		地球環境を次の世代に残すために、皆で自覚しよう。まずは、温室効果ガスー25%を目標に先進国はリードします。我々はチーム地球の一員です。	12
未来の地球のために今何ができるか		先進国は資源を多用して発展してきた事への反省を、途上国はその反省をふまえ、今自国がすべき事を寛容・協調した枠組づくりをし全世界で有言実行を！	12
私達の準備はできている！		地球温暖化は人間の責任だ。責任は果たしたいが手段はわからない。市民ができる具体的な事を決め、各国の得意分野で協力を！	19
みんなで減らす、みんなで創る。		地球規模の温暖化に対して、問題意識を共有し、個人レベルの地道な努力を促す。また、国同士の協力による新技術の開発チームをつくる。	15

■全体を振り返って

今回の会議は、これまで科学の専門家と各国政府によってもつばら議論され、物事が決められてきた地球温暖化問題に、一般の市民が意見を届けるための世界的な実験でした。とくに日本では鳩山政権が誕生し、先日の国連総会での首相演説に見られるように、温暖化問題に対する取り組み姿勢や国際的な立場に大きな変化が現れつつあります。会議の参加者の方々も、このような「新しい風」、その予感の中で今日の会議を迎え、議論を尽くされたのではないかと思います。その成果は、必ずや12月のCOP15の場に届けられることでしょう。

加えて今回の会議には、温暖化問題に限らず、わたしたちふつうの市民が、社会の問題についてともに考え、議論し、その声を政策決定の場に届けるための「方法」があることを世の中に示し、またその方法をさらに改善していくための社会実験という意義もありました。その効果の検証や評価は、これからの課題ですが、その成果が必ずや今後の日本社会で活かされるべく、努めてまいりたいと思います。

今日一日、休日を削って全国からお集まりいただき、熱心に議論していただいた参加者の皆さまをはじめ、会議開催にご協力、ご尽力いただいたすべての皆さまに、WWViews in Japan 実行委員会一同、深く感謝申し上げます。

WWViews in Japan 実行委員会

文責： 平川秀幸（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）